

# エソタ



笑福亭 たま

これを言つと、差別発言」と指摘している。そういう意味ではやはり笑えない。

この頃、政治関連のニューズは、笑てまうぐらい「笑えない話」が多い。菅義偉首相の長男が勤める「東北新社」から接待を受けたとされる山田真貴子内閣広報官(一日に辞職)は「飲み会を断らない女」と自称していたそうだが、普通に「断らなアカンやろ」と思ってしまう。森喜朗さんの女性差別発言を全文読んで、思わず「ホンマに年寄りというのはこういう偏見を持つな」と言いつつになつた。これも偏見だが…。しかし、森氏の発言と私の偏見は大きく違う。それは実害があるかどうかで、国語辞典編纂者の飯間浩明氏がツイッターで「決定権のある立場の人が

## これにて終演

さらに森氏は謝罪会見で「各競技団体から女性が多いと話が長い」という話をよく聞いた」という趣旨の発言をした。この発言の中身が事実なら、各競技団体に女性差別が行われていることになる。謝罪内容より大問題だし、これを堂々と言う森氏に思わず「アホちゃうか」と思ってしまった(笑)。森氏の堂々とアホな発言をする様子は笑えるが、女性差別が事実なら、由々しき事態で笑えない。

落語界でも失言や不適切な行動はあるが、こんなことにはならない。寄席の三味線弾きは、基本は舞台に姿を現さず、舞台袖で演奏する。いわ

## 「笑えない話」が多いけど

バレ太鼓(終演の太鼓)を打つ筆者



のにサインを求めてくる人とよく遭遇するが、うちの師匠は若い時、そんな人には「笑福亭鶴光」とよく書いたそうである(これはアカンと思うが…)。

ば「縁の下の力持ち」である。にもかかわらず、先代桂米紫師匠は学校公演でお囃子さんを紹介する時に「一生、日の目を見ない方々です!」と紹介した。私の師匠・笑福亭福笑は古典落語と新作落語の両刀遣いだが、とある落語会のパンフで「古典と新作の二足の草鞋を履く」と書かれていた。こつこつのは、ある意味「力不足」と「役不足」の間違いで笑いやすい。噺家は自分のことを全く知らない

主同士なので、パワハラになりにくいし、また舞台で話せる範囲の困ったことはネタにして、不快な気持ちを収めているのかも知れない。ただ、今まで私の文章で不快になつた方には、申し訳ないとは思ふものの、今回で私のコラムは最後なので、お許しください。また落語会でお会いいたしましょう。長い間ありがとうございました! (落語家)

このコラムは今回で終了します。